

事業名	子どもの読書ボランティア指導者養成講座及び指導者派遣事業
事業の特徴	子どもの読書ボランティア指導者の養成講座開設と指導者登録及び派遣

実施機関名	栃木県教育委員会生涯学習課（栃木県立図書館）
連絡先	〒320-0027 栃木県宇都宮市塙田1-3-23 担当:企画協力課 TEL 028-622-5113 FAX 028-624-7855 E-mail kikakuka@lib.pref.tochigi.jp
事業規模	都道府県（政令指定都市を含む）
事業主体	教育委員会
事業のテーマ分野	読書活動（リーダー養成と派遣）

## 1 事業の概要

「子どもの読書ボランティア指導者養成講座」は、地域や学校で子どもに読み聞かせなどの読書ボランティアをしている活動者の中から、指導・助言のできる指導者を養成する講義と演習の実践研修（全6回）である。また、講座修了後は「子どもの読書ボランティア指導者」として登録し、地域の読書ボランティアの支援のため、子どもに読書の楽しさや大切さを伝える活動や、読書ボランティアの活動ネットワークの構築など、子どもの読書活動の推進力となる広範な読書活動を支援することを目的としている。



指導者養成講座



フォローアップ研修会

受講資格は読書ボランティアとして5年以上の経験があり、講座修了後は依頼に応じて指導・助言活動ができる人とし、依頼の下、県内各地域に講師として出かけ、読み聞かせやお話しなどの実践的なアドバイスをし、地域の理解者を増やすことで子どもの読書を支援するものである。

## 2 事業の趣旨、目的

地域や小学校では多くの読書ボランティアが読み聞かせなどを行っているが、その多くが十分な準備のないまま読書支援活動をしているのが現状である。学校司書や司書教諭とのかかわりも少ない環境の中、一部のボランティア活動団体などから読書にかかわる大切な役割を果たすボランティアに対して、読み聞かせやブックトーク、ストーリーテリングなどの基本的な実践指導や体系的学習の必要性が指摘されていた。

そこで「栃木県子どもの読書活動推進計画（第1期）」（平成16年2月公表）に掲げていた「子どもの読書ボランティア指導者養成事業」の実施に向けて「栃木県子どもの読書活動支援ボランティア活動状況等調査報告（平成18年2月）」を基に、「読書ボランティア等活動支援方策検討部会」を設置し、検討を重ねた。その結果、読書ボランティアの充実とその資質・技術の向上を図るには、指導者となる人を養成し、ボランティア同士のネットワークを構築することが必要であるとの部会報告がされた。既に読書ボランティアが対象の講座として、「スキルアップ研修会」と「活動交流会」を開催していたが、順次整理統合し、平成19年度から「子どもの読書ボランティア指導者養成講座」として開講することとなった。

また、翌平成20年2月に「子どもの読書ボランティア指導者派遣実施要項」を定め、派遣事業を開始し、講座の成果が活用されている。

## 3 事業の内容

### (1) 学習の内容

#### ① 子どもの読書ボランティア指導者養成講座

この講座は全6回（6日間24時間）で、大学教授や准教授、非常勤講師、絵本作家、地域文庫活動者、ボランティア実践者、県職員など県内外を問わず多岐に渡る方々を講師に、読書理論や読書の効果、読み聞かせやお話しなどの実践を中心に技術と知識を習得する。

実践プログラムは、各自が自由に作成して全員が発表し、読み聞かせだけでなく、お話し、紙芝居、手遊び、パネルシアターなど幅広く体験できるようにしている。また、指導者として活動するための根拠となる国や県の「子どもの読書活動推進計画」を通して行政への理解を深めるとともに、連携・協力の重要性を学び、地域でのネットワーク作りに役立つ情報を共有できる仲間作りを支援している。

子どもの読書ボランティア指導者養成講座 募集要項			
<p>県立図書館では、各地域で活躍する子どもの読書ボランティアの活動を支援するため、読書ボランティアの育成に努め、指導者・助産者として活動できる人を養成する子どもの読書ボランティア育成者養成講座を開催いたします。ボランティア経験者を対象に、県内各地域で子ども読書の楽しさを広げる推進力となる人の養成を目的とします。</p> <p>◆日程：平成21年9月11日（金）～11月27日（金） 【全6回 受講料は無料】</p> <p>◆主催：栃木県立図書館 ◆講座内容【午前10時～午後3時】（期により変更の可能性があります）</p>			
期	日	テーマ	講 師
1	9月11日 （金）	（講義とワークショップ）読書ボランティアについて	○栃木県教育委員会 館澤浩也 ○上野原教育事務所 滝澤美佐江
2	9月25日 （金）	（実践）充実した読書ボランティアを目指して	○子どもの読書ボランティア 宇都宮市立図書館 関野あずさ 佐山由佳 ○栃木子どもの本読読会 小林静子
3	10月9日 （金）	（講義と実践）読み語る技術1	○筑波大学 松戸孝子 KLV 奥谷麻子
4	10月23日 （金）	（講義と実践）読み語る技術2 読話し、紙芝居を中心に	○親子読書地域文庫全道連絡会 広瀬恵子
5	11月5日 （木）	（講義と実践）読み語る技術3 作家の思い フォットワークを中心に	○絵本作家 藤田博子
6	11月27日 （金）	（実践）読書の研究とまとめ	○作新学院大学女子短期大学読書部・栃木県子どもの読書活動推進協議会会長 加藤千代子
（会場はすべて栃木県立図書館です）			
◆応募用紙、応募条件等は裏面をご覧ください。			
◆締め切り：平成21年8月31日（月）必着			
◆申込み・問い合わせ先：栃木県立図書館・企画協力課（電話：028-622-5113） 〒320-0027 宇都宮市南1-3-23 e-mail: kikaku@lib.pref.tochigi.jp			

養成講座募集のちらし

## ② 指導者フォローアップ研修会

この研修会は、指導者養成講座修了者を対象に、指導方法や活動に対する考え方の充実・定着を図るとともに交流の機会を設けている。具体的には、アナウンサーから基本的な声の出し方や日常の発声練習方法の指導を受けたり、児童書の出版情報についてはJ P I C読書アドバイザーとして活動する書店員から、本の入手方法についてのポイント（新聞記事・広告のチェックや出版社を記憶すると書店に注文しやすいこと）など取次店を介しての出版流通について学んだりした。また、修了者を講師とした情報交換では、本の選び方の重要性、お話し会の持ち方、新しいメンバーが増えないことや続けていくことの大変さなど、様々な疑問や悩みの解決について、仲間として気軽に相談できる機会やネットワーク作りの必要性などを確認した。



指導者派遣事業のちらし

## (2) 学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

「子どもの読書ボランティア指導者養成講座」は読書ボランティアとして5年以上の経験があり、講座修了後は「子どもの読書ボランティア指導者」として登録し、依頼により指導者として活動できる人を対象にしている。

指導者は、県立図書館を通して派遣依頼のあった団体等に出向いて読み聞かせ等の指導・助言を行う。県立図書館が各図書館・公民館を通して指導者派遣事業の広報PRをしており、求めに応じて登録者の中から双方の条件などを考慮して人選している。決定後の指導内容等は当事者間で調整することとし、事業の終了後はそれぞれに簡単な「実施報告書」の提出を依頼しており、報告書によると、受け入れ側の準備体制や指導者の指導内容などについてはお互いにおおむね満足しているとの報告を受けている。

地域のグループや保育所、小学校、県立高校（ボランティア、保育士志望者）をはじめ地域の教育振興協議会など公的機関からの派遣依頼もあり、子どもの読書ボランティア指導者に対する信頼と評価が得られている。



指導者として活動の様子

実施報告書＜A4＞

### (3) 推進体制等の仕組み

受講者の中には、講座修了後に地域での連絡協議会を結成したところもある。また、現在検討中のグループもあり志を同じにする仲間を求めて講座に参加する人も多く、グループ内での学習会だけではない裾野の広がりが見られ、他のグループとの積極的な交流を図っている地域もある。

また、本講座の講師には、地域の連絡協議会のメンバーや前回の講座修了者を数名加えるなど、人材養成のサポート的な側面もあり、平成19年度からの講座修了者を対象とした平成21年度フォローアップ研修会では、講座修了者を講師の1人として依頼した。

本事業の主幹課である生涯学習課がTV、新聞、ラジオなど広範に渡る広報・PRを実施し、県立図書館は県内の公共図書館・公民館図書室や各教育事務所、市町村教育委員会などを通して学校へのチラシの配付依頼を行うなど連携・協力している。

## 4 成果と今後の取組

3年間の講座修了者は97名、登録者は66名、派遣実績は約30回であり、550名以上（平成21年12月末現在）が指導を受けたことになる。県内30自治体のうち22の自治体に登録者がおり、全自治体に指導者登録がされるよう、推進していきたい。

また、回を重ねるたびに読み聞かせだけではなく様々な読書支援の方法・手段に工夫が見られ、学習の効果が著しく向上していると思われる。今後は継続したフォローアップ研修の機会や、指導者派遣後の受け入れ側と指導者双方の意見をフィードバックした情報の提供が必要と思われる。さらに、ボランティア活動者の努力と熱意を評価できる資格としての位置付けなどについても、生涯学習としてのボランティア支援策として考える必要もある。

なお、研修内容についてはやや絵本に偏る傾向があるため、受講者の技量と子どものニーズを考慮し細分化したクラス分けをするなど、更なる検討の余地があり、子どもの自主的な読書意欲を喚起する方法についての研究も課題と思われる。

【執筆者の職・氏名】 栃木県立図書館 副主幹 神山 令子